

Voice of Customer

Vol.1 代沢さくら醫院 様

Ryan Scope・Julie Eye



〒155-0032 東京都世田谷区代沢4-45-19 ザシーズン代沢1F



お話を伺った 院長 小林健一 先生(左)と 副院長 小林千紗 先生(右)

ご施設紹介

東京都世田谷区の閑静な住宅街に佇む“代沢さくら醫院”は、内科、糖尿病内科、腎臓内科、消化器科等、幅広い診療に対応する地域密着型の医療機関です。誰にもやさしいバリアフリー設計の施設に、エコー、レントゲン、胃カメラ、眼底カメラ等、充実した機能を備え、院長 小林健一 先生と副院長 小林千紗 先生のお二人で、小さなお子様からご高齢の方まで、どなたでも気軽に通院できる地域のかかりつけ医院として、長きにわたって地域医療を支えています。

眼底カメラの導入背景についてお聞かせください

世田谷区の特定健診項目に眼底検査が設けられたこときっかけに、患者さんが内科と眼科に通院する負担を減らしたいという思いで、眼底カメラを購入しました。

コンパクトサイズで
簡易撮影が魅力的

糖尿病患者様の
眼底スクリーニングと
特定健診で活用

初めて導入した機器の老朽化が進んでいたため、切り替えを検討していたところ、クレアボ社の眼底カメラであるRyan Scope/Julie Eyeに出会いました。初めて実機を見たときは、コンパクトなサイズに驚いた事に加えて、撮影画像も鮮明でした。また、AIによる解析補助も提供されているということで即決しました。

活用シーンを教えてください

主に特定健診と、糖尿病患者様の外来に使用しています。当院を受診する約7割が高齢の方ですが、その多くは高血圧、高脂血症、糖尿病等の生活習慣病にかかりています。糖尿病の方は高齢者の約3割いらっしゃるので、年間の診療計画に基づき、患者さんの状態に合わせて、1~2回/年の眼底検査を行っています。また、特定検診には、血液検査をはじめ、胸部X線、眼底検査等が指定されますので、当院ではそのほとんどを実施できる体制を整えています。実際に当院にかかりつけの患者さんの多くが受診されています。



ハンディ眼底カメラを使用された感想を聞かせてください

当院では看護師に撮影をお願いしています。正直、ハンディタイプ*の眼底カメラの取り扱いは全員初めてだったので、最初は練習が必要でした。スタッフ同士で練習を繰り返し、また、撮影する部屋の明るさの調整や、製品のできること、できないことをしっかりと理解して使用することにより、現在はスムーズに運用できています。どの医院でも同じかと思いますが、施設スペースには限りがあるので、コンパクトである事の利点も大きいです。

* 代沢さくら醫院様は、あご載せ台を使用して撮影されています。

導入効果を教えてください

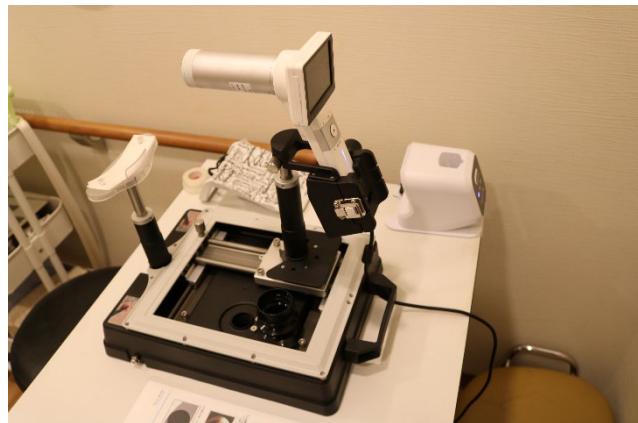
従来は、患者様に対し、眼底写真を用いた説明のみでしたが、Julie Eyeは、AIによる解析結果を参照できるため、単なる診断補助だけでなく、患者様とのコミュニケーションツールにもなっています。何より、当院で眼底スクリーニングを実施していることで、糖尿病患者様の合併症に対する意識づけができます。実際、AIが眼底症状を検出したことにより、眼科受診へ紹介した患者様もいらっしゃいます。長年にわたって眼底検査を実施していることもあって、

近隣の眼科先生方との地域連携が円滑に行えています。

クレアボ社への期待を聞かせてください

Julie Eyeは、Ryan Scopeで撮影された眼底画像から、数秒で症状の有無を解析してくれます。これは大変有難いですが、欲を言えば、将来更なる情報が提供されると嬉しいです。例えば血管に関連する病気の予兆を捉える等、日進月歩のAIが情報の幅を広げてくれると良いです。クレアボ社は、最先端の医療機器・プログラム医療機器を紹介してくれるの、次の製品にも期待したいです。

当院のような地域のかかりつけ医院は、様々な患者様が来院されるため、AIを通じて、医療専門性を補完し、診療の質を上げることは必要不可欠だと考えています。今後も様々な領域の製品を発掘して、医療従事者のためになる製品の上市に取り掛かってほしいです。(インタビュー:25年3月)



販売名: 眼底撮影装置 Ryan Scope／ライアンスコープ
一般的名称: 眼底カメラ
認証番号: 304ADBZX00087000
特定保守管理医療機器

販売名: 画像解析ソフトウェア Julie Eye／ジュリーアイ
一般的名称: 眼底カメラ用プログラム(眼撮影装置用プログラム)
認証番号: 304ADBZX00119000

